

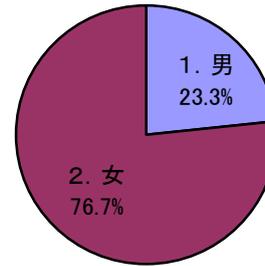
滋賀の医療福祉を守り育てる県民フォーラム参加者アンケート結果(H24)

- ・フォーラム参加者: 380人
- ・アンケート回答者数: 120人

問1 あなたの性別は？

| | | |
|------|-----|--------|
| 1. 男 | 28 | 23.3% |
| 2. 女 | 92 | 76.7% |
| 合計 | 120 | 100.0% |

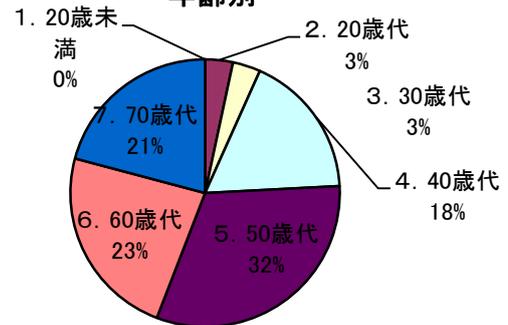
性別



問2 あなたの年齢は？

| | | |
|----------|-----|--------|
| 1. 20歳未満 | 0 | 0.0% |
| 2. 20歳代 | 4 | 3.3% |
| 3. 30歳代 | 4 | 3.3% |
| 4. 40歳代 | 21 | 17.5% |
| 5. 50歳代 | 38 | 31.7% |
| 6. 60歳代 | 28 | 23.3% |
| 7. 70歳代 | 25 | 20.8% |
| 合計 | 120 | 100.0% |

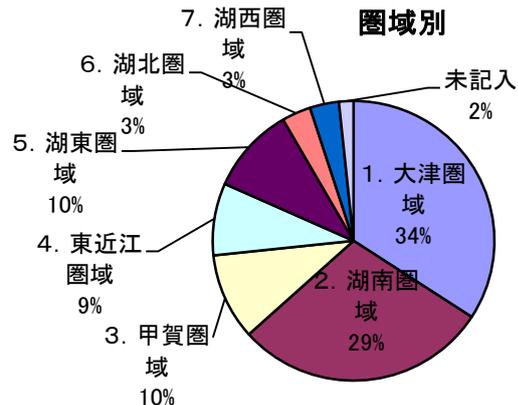
年齢別



問3 あなたのお住まいの地域は？

| | | |
|----------|-----|--------|
| 1. 大津圏域 | 41 | 34.2% |
| 2. 湖南圏域 | 35 | 29.2% |
| 3. 甲賀圏域 | 12 | 10.0% |
| 4. 東近江圏域 | 10 | 8.3% |
| 5. 湖東圏域 | 12 | 10.0% |
| 6. 湖北圏域 | 4 | 3.3% |
| 7. 湖西圏域 | 4 | 3.3% |
| 未記入 | 2 | 1.7% |
| 合計 | 120 | 100.0% |

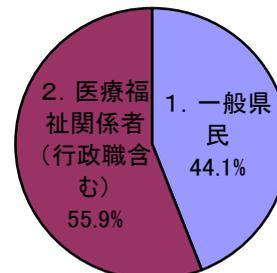
圏域別



問4 あなたの職種は？

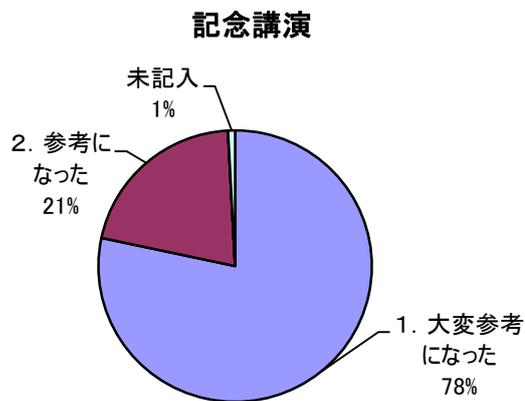
| | | |
|-------------------|-----|--------|
| 1. 一般県民 | 52 | 43.3% |
| 2. 医療福祉関係者(行政職含む) | 66 | 55.0% |
| 未記入 | 2 | 1.7% |
| 合計 | 120 | 100.0% |

職種



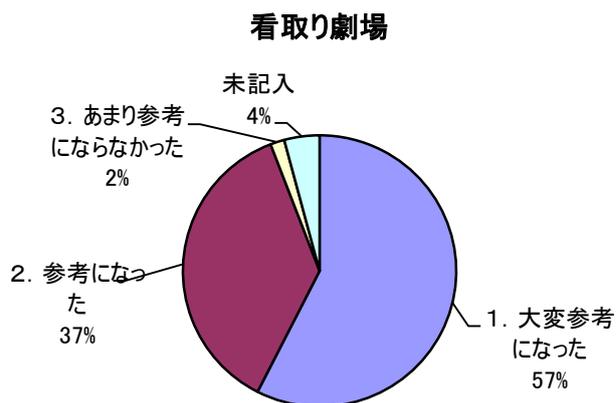
問5 本日の内容はいかがでしたか
 <記念講演>

| | | |
|-----------------|-----|--------|
| 1. 大変参考になった | 94 | 78.3% |
| 2. 参考になった | 25 | 20.8% |
| 3. あまり参考にならなかった | 0 | 0.0% |
| 未記入 | 1 | 0.8% |
| 合計 | 120 | 100.0% |



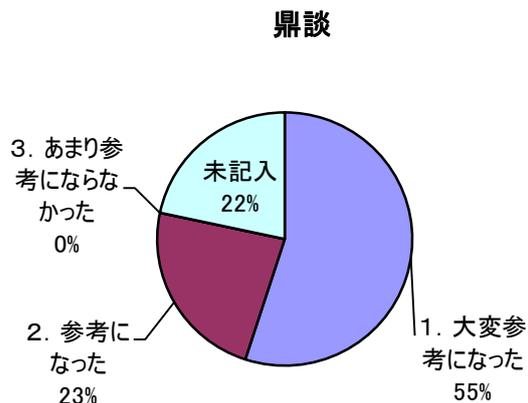
<看取り劇場>

| | | |
|-----------------|-----|--------|
| 1. 大変参考になった | 69 | 57.5% |
| 2. 参考になった | 44 | 36.7% |
| 3. あまり参考にならなかった | 2 | 1.7% |
| 未記入 | 5 | 4.2% |
| 合計 | 120 | 100.0% |



<鼎談>

| | | |
|-----------------|-----|--------|
| 1. 大変参考になった | 66 | 55.0% |
| 2. 参考になった | 28 | 23.3% |
| 3. あまり参考にならなかった | 0 | 0.0% |
| 未記入 | 26 | 21.7% |
| 合計 | 120 | 100.0% |



問6 今後、どのような話を聞きたいですか？

| | ご意見等 |
|--|---|
| 一 般 | 現在私の父95才と一人娘の私の家族、主人や孫に囲まれサービス週4回を利用し穏やかに生活しています。多少の病気もありますが、自分で食べ、よちよちですが歩くことが出来、喜んでいますが、年々気力体力共減少していきます。特に気力、何をしても面白くないという感じが切なく思います。何とか楽しく過ごせるようにするには……サービスでは歩行練習や友人とのおしゃべりなどしているようですが家では寝ている事が多いのです。主人や孫もとても父に優しいのですが、生きる力、気力、精神力UPするには…… |
| | 今回のような話題でないような事などでも絶対に考えなくてはならないような事など |
| | 認知症を主とした話 |
| | 介護を私が受ける様になった時どれだけ料金が必要か |
| | 介護する方の心のケアも必要だと思います。 |
| | 鎌田先生の話を知りたいと思ってましたので本当によかったです。 |
| | 地域医療を積極的に行われている永源寺地域の医師(花戸先生)の日々の現場の体験を支えたお話を聞ければと思います。 |
| | “介護をされる側の心”など見落としがち、目に見えない部分を知識として得たい |
| | 滋賀県内の在宅看取りをされている、先生や看護師さんの話 |
| | 滋賀県のホスピスの現状と今後の方針について |
| | 語りが出来る人 |
| | 精神障害と就職、性の問題、ホスピスケアの問題・生存権25条、自殺問題、医学と哲学、倫理の問題、法律と人間性との兼ね合い、個人の尊重13条 |
| | 介護者の心のケア |
| | 在宅看取り、地域にどう浸透させるかにありますね。その為に定期的なフォーラムが必要。制度とかあり方。 |
| 関 係 者 | 在宅看護の情報は大変参考になる |
| | 在宅看取りと、施設看取り |
| | 似かよった企画を希望します。テーマ音楽に琵琶湖就航の歌を利用しては |
| | 国の政策とは違う県、独自の取り組みについて |
| | 生命のつながりの感じられるお話 |
| | おひとりさまでも、在宅死できる方法は？ |
| | 在宅看取りをすすめるために、取り組んでいける話・地域で支えるシステムを実践している地域の話 |
| | びわこ学園で働いています。今、学園でも高齢化がすすみ、看取りになることが多いです。看取りについても在宅ケア、在宅医療を含めて考えてほしい。 |
| | 在宅看取りがどのくらいすすんでいるのか 取り組みなど実例をききたい |
| | 看取りについての体験談をもっとたくさんお聞きしたいと思います。うまくいったこと、よかったことetc.. |
| | 高度周産期医療(産科医も小児科医も助けただけ満足しているのではないか?)で助けられた子供たちは、各々少なからず障害を持って生活しています。成人となり、親は高齢となり、生活の場は狭くなりながらで、つらい思いを抱えながら生きていかなければならないのではないのでしょうか？ |
| | 県が実際におこなっている看取りの紹介、医療福祉の実例の紹介 |
| | 女性の人権について |
| | 家庭においても立場の弱い御老人が一杯いる。皆お年寄りに理解を愛情を！施設へ預け放し等も |
| 在宅看取りの必要性は十分に感じています。それでも最期を施設で迎えるという選択肢もあると思います。施設職員として、どう、在宅看取り、施設看取りを支えていくか？介護施設の職員に地域が期待されること(看取りについて)をききたい | |

| |
|--|
| 最後を向かえるときはとても不安になりどうしてもお医者さん(救急車)に頼りたくになります。…この時の対応など見極めなど教えてください。 |
| 実際看取られた家族の話を聞きたいです。携わったDr、看護師、介護職、ケアマネの話も聞きたいです。 |
| 若者に対してもこのようなフォーラムを企画してほしい |
| 県民の死生観と病院のDr、開業医の思い |
| 地域包括ケアや在宅看取りの具体的な取り組みについて |
| 認知症を地域で支える事 |

問7 フォーラムに参加された感想など

| | 感想等 |
|------|--|
| 一般男性 | 今後とも継続に意識向上のためにも県民フォーラムを開催してほしい |
| | 看取り劇場は居られませんでした。すみません |
| | このフォーラムに参加して知事さんを初 医療施設地域を十分活用され住みよい県になるよう切望します。5年前に鎌田先生との出会いで妻を介護しています。 |
| | 非常に良かった |
| | 同名の医師が講師だという事で、一度個人的に話を聴きたいと思った。タレント化しておられないのなら、ビジョンと現実が合わないまま、矛盾をかかえたまま、国の取り組みが組み立てられてゆく。無縁社会をどう思うか。エリート意識の強い医師に敗北感を強く持つ病人、老人の気持ちがわかるのだろうか？生活困難者が充分の医療を受けられるのだろうか |
| | 一般的な死は生命活動をおえただけで、人はずっと行き続けると思っています。忘れなければ、生きつづけると私はその信念で生命活動をしています。 |
| | 自分の人生の最後は自分で決めることの大切さを感じました。 |
| | 今後の自分の最後のあり方について記録し後に残った家族が心配しないようにしておきたい |
| | 自分流に生きる。相手の身になって考える。大切なことですね |
| | 記念講演、鎌田先生のお話は非常にタメになった。私も間もなく後期高齢者を迎えます。いつお迎えが来ても慌てない様にポツポツ人生終演の準備を考えなければならなくなったとの思いを強くしました。 |
| 一般女性 | 大変有意義な時間を過ごすことができました。勇気を持って考えてみたいと思いました。ありがとうございました。 |
| | 在宅は十分なケアはできないけれど、人生を全とうするには、やはり最期は自宅がよいと思った。鎌田先生の話が聞いてよかった。また機会があれば参加したいと思います。 |
| | 高齢の母がおりますので大変参考になるお話を聞いて良かった。気軽に相談できる地域の人たちもいらっしやるので、肩の荷が少しとれます。 |
| | 夫が介護5ですので介護者の会でお世話になりたい(話し合い情報交換)今から介護施設へいきますので心の温かさ伝わってきました。元気で現在は生きられることに感謝します。 |
| | 鎌田先生のお話、親しみ易く楽しく拝聴致しました。劇も面白かったです。 |
| | いつも自分の最期を考えております |
| | 最近娘から在宅死の本を読むように渡されて一ヶ月ほど前に終わったところで私の感想は「いよいよとなっても救急車は呼ばない」と言う事に決まりました。住まいの近くに在宅の看取りを訪問診療して下さるお医者様がいらっしやるのかどうかと気懸かりです |
| | 非常に深刻な問題を楽しく聞き見させていただきありがとうございました。日々考えている問題ではありますが、今後も考えていきたいと思えます。 |
| | いろいろなお話が聞いて良かったです。 |

自宅介護で急変した時救急車を呼ばない！という事はやはりできない。出来なかったです。現実はうろたえてしまう自分がいます。

今後のこと具体的に考えたいと思います。

今年主人を看取り、私自身も頸椎損傷で身体障害者ですが自分のために家族に迷惑をかけないよう自分を守るため趣味で好きで始めた気功体操をリハビリとして取り組んでいます。全く同じ意見です同感です。今日はとても楽しく過ごすことが出来ました。ありがとうございます。

「提案」事項に賛同 今ある資源(人材)を丁寧に細やかに継続して磨いていく支援をお願いします。

今、介護老人を抱えているので最期にどうしたら良いか悩んでいました。参考になります。良かったです。

地域における医療従事者と行政だけでなく、住民の意職をたかめること地域医療体制の基盤を築くことができると思う。核家族化に伴い死を直面する機会の激減した子供達にも今日のような看取り劇場を見せてあげたいと思います。世代を超えて介護について考えることができればもっともっと、滋賀県が住みやすい街に変革していくことができるでしょう。個々のEndingNote重要性改めて実感いたしました。

前から鎌田先生のファンで、本もよませていただいていたが、直接お話を聞きたく参加しました。私も義母、父、母を介護し、義母については、まだ制度のない時だったので、それが思い出されます。

(講演)「相手の身になって考える」「介護する人の笑顔を守る」ということが心に残りました。

8月半ばより、実父を病院で介護中です。祖母は30年近く前、自宅で看取ることができました。その時に在宅での点滴120日を支えたのは父でした。できることなら、父も自宅にて看取ることができればと思っておりますが…この冬を乗り切り、春になれば在宅での介護にふみきりたいと思っています。義母は熊本でアルツハイマーの症状を抱え一人暮らしを続けています。その生活もどう支えていくのか…

毎年、趣向をかえて開催してほしい

自分の看取られ方など少しは考えているが、その参考になった

参加して良かったと思います

関係者男性 楽しい時間を過ごさせて頂きました。

構成がすばらしかった。出演者一人一人の努力と技術に心底敬意を表します。Excellentとしかいいようがない。

手作り感のある「あったかい」会でした。厳しいテーマですのでしっかりと現実を見据えたいと思います。

皆様方の努力が拡がって実になっていくことを願います

住みなれた我が家で最期を迎えることが幸せであることがわかった。今後独居老人が増えるが、このような人が最期をどのように迎えるのがよいか、提案を期待したい

関係者女性 自分の最後は美しくありたいと思っています。エンディングノートを是非作っておきたいと思いました

見る側見られる側から、いろんな話が聞けてよかったです。

関係者女性 人としての生き方、死に方について考えるよい機会となりました。ありがとうございました。

医師として15年そのうち半分8年をびわこ学園で働きました。寿命、元気、医療がすすむのはなんだろうと思います。国森さんの最期の先天性医療のbabyの事は深く考えさせられました

関係者女性 仕事との関連からだけでなく、老いを迎えた親の介護、自立にさしかかった子供を育てる親として考えさせられる内容でした。

関係者女性 主人は52で天国に20年前のことです。でも自分の希望通り？在宅で最後を息子と私の目の前で天国へ…それは健康な時に在宅を希望していたからです。鎌田先生のお話を聞き参加して良かったと思いました。

すばらしい内容で感激しっぱなしでした

在宅で看取りは本人も希望しているが受け入れの数が今後ますます不足するだろうから行政が逃げているように思える節もある。在宅を充実させる為には介護従事者の報酬をはじめとする生活ができるぐらいな待遇を考えていかないとますます離職が増えると思う。介護は誰にでも出来ない仕事なのにあまりに軽くみられているのではないか！私には子供が居ないので命のバトンはつなげません。悲しくさみしい事です。

私も在宅で母と叔母を見送りました。私ひとりで救急車を呼ぼうとも思いませんでした。これで良かったと思っています。あの日のことを思い出していました。在宅看取りに頑張りたいと思っています。

看取りをテーマにされていましたが、県民が自分流に選択するという中の1つが看取りであるという発想が良いなあと思いました。劇場すばらしかったです。

啓発要素が色濃い内容であるためもっと大人数が収容できるホールがよかったのでは？

40年前はまだまだ在宅で看取ることがあたり前だったような気がします。ただ、PEGが点滴、呼吸器等の医療器機を抱えたまま在宅へ放り出されるのも現実です。今回は高齢者の綺麗な看取りのお話であったように思いますが、今迄、病院での医療も含めて考えていくべき内容等検討する事柄は多くあるのではないのでしょうか？

意識の高い人(このシンポジウムの参加者)からどう横(意識を持ってもらうことからスタートの人)につなされるか…。我が町でも在宅医療、看取りがはなせる集いをつくれたらいいなと思っています。

今日は命について考えさせられた。ありがとうございました

大変よいフォーラムでした。今後の発展を期待します。

常から子供たちに自分の最期の事を話していますが、悲しいからそんな話聞きたくないといいます。それでもこれからも自分らしい最期に向けて話し続けていきます。本当によい時間が持てました。ありがとうございました。

看取りについて考える場面が増えてます。本日は在宅看取りと介護の支え、介護者を支えるなど深く考えさせられました。自分の意志、意向を伝える重要さに納得がきました。

良かったです。ユーモアもあって最後まで筋が通っていて良かったです。

鎌田先生の講演があるので参加しましたが、劇もとても良かったです。皆さんお忙しい方々ですが、啓発のための演劇をおもしろおかしく作りやすく作っていただき楽しませて頂きました。とても良かったので是非、県内の様々な場で演じていただきたいと思います。国森さんの写真からも多くのことが伝わってきました

人生最後 今日のようなテーマの講演をととても望んでいました。ありがとうございました

今迄なんとなくしか考えていなかった、最期の迎え方を真剣に考えて行きたい。家族知人にも今日のことを話し伝えたい。

地域で地域の人をみていけるようになるようにと思っています。鎌田先生の話が直に聞いて良かったです。劇も良かったです。

医療現場で働き続けて30年余りかつては「死」という言葉がタブーとなっていた現場ですが滋賀県が「在宅看取り」を「在宅での最期の迎え方」を県政として取り組みはじめた頃より私自身も患者さんとの関わり地域住民との関わりを考え直すようになりました。そこで、自分はどうのように支えていく必要があるか現在の職場で安心して病院で治療医看護を受けられそして安心して在宅療法が送れるように援助していきます。

鎌田先生の講演を聴講し地域医療、福祉のあり方を改めて考えることができました。「命をささえる」これは決して個人ではできない。家族があり、地域があり、このように滋賀県のあり方、もっとも地域住民そして私達医療現場で働く者達へも啓蒙活動していく必要があると思います。本日は参加できることができた大変良かったです。ありがとうございました。

現在、自宅で主人の父を介護中。そして訪問看護師として働いている。日々の介護で疲れたり、悩んだりしている自分自身の気持ちを考える機会となった。もっと「人の死」が身近に感じられるような地域をつくりたい。在宅で自然な平穏な死を迎える人が増えたらいいのと思っている。それを支える看護師として、私も社会貢献ができればと思っている。そしてやはり、父は自宅で看取りたいと思っている。

仕事として個人として“どのような最期をむかえたいか？”は大事なことと考えている。記念講演も劇もこれからの良い指針となりました(在宅看取り)

一人一人がどのような最期を迎えたいか意志決定し、それを家族、医療関係者、地域が支えるシステムがうまく回るようになれば素晴らしい滋養になると思います。医療者の一人として、地域の住民の一員として、鎌田先生のお話にあったように、その方の身になって考えられる支援者となれるよう日々研きを重ねたいと思います。

私は介護の専門職です。医療施設に介護する(専門職)がまったく出てこないのにいつも疑問に思います。訪問介護・・・？

県が在宅医療推進で、在宅看取りや訪問看護師を増やすことにも、ようやく力を入れていただけるようになり、大変うれしいことと、鎌田先生の話はぜひ、聞きたかったから

本日、参加させて頂き、本当に良かったです。「人生の最期の迎え方」自分自身の事として考えていきたいと思えます。

昔なら当たり前のことが高度成長と共にうしなわれてしまったことかと感じました。人間本来のあったかさを感じられてよかったです。

病院や医師が在宅療養(最期まで)できる事を説明できる力も必要。介護保険のサービスや地域のDrとの連携、とても大切だと思います。老いは見守る